

14 コンニャク越冬栽培について

情報提供：西部農業事務所

富岡地区農業指導センター

活動のねらい及び背景

WTO 農業交渉や LDC 無税無枠措置等により、外産輸入の増加によるコンニャク価格等への影響が懸念されており、安価な輸入原料に対応した低コスト栽培の確立が求められています。

そこで、自然生栽培と現在の栽培技術を組み合わせた、ほ場越冬栽培の現地導入について検討するため、「コンニャク越冬栽培研修会」を開催しました。

普及活動の経過

甘楽・富岡地域のコンニャク生産者で組織している甘楽富岡こんにゃく研究会では、地域の特産物であるコンニャクの生産技術向上や経営安定を図ることを目的に、研修会を毎年開催しています。

今年度は、7月24日（木）ほ場越冬栽培について昨年より農業技術センターで設置している現地試験ほ場を活用し、研修会を開催しました。

普及活動の成果

当日は炎天下の中、30名が参加し、農業指導センターよりほ場越冬栽培のポイントと昨年度の試験結果について説明した後、試験ほ場の視察を行いました。ほ場担当者や参加者からは、「植え付けた生子が大きかったので、もっと栽植密度を粗くしても良いのではないか」、「病気が発生したらどうするのか」等、活発な意見が交換され、実際に取り組んでみたいという意見もありました。



【越冬栽培のようす】



【試験ほ場の視察のようす】

技術のポイント

越冬栽培により、1年目の掘取りや種芋貯蔵管理作業、2年目の土壌消毒や植付け作業等が省略できますので、労力の削減が可能となります。

また、1年目の貯蔵経費や2年目の土壌消毒等に関連する農薬や資材等の削減が可能となります。

さらに、10a当たりの販売量は慣行栽培に比べ、大幅に増加するなど、コスト削減が可能となります。

しかし、越冬栽培は、中部～西部地域の冬期に日当たりの良いほ場が対象地域となり、冬期に日陰となるほ場や、吾妻・利根地域では対象となりません。